

令和七年度 第二学期始業式 式辞

おはようございます。

水の事故が多い夏休みでしたが、こうして海洋生が、本日元気に同じ屋根の下に集うことができて、大変うれしく思っております。

さて、ちょうど一年前、昨年の二学期始業式の式辞で、「観測史上で最も暑い夏」などの表現をしたのですが、この夏も、最も暑かった昨年以上に暑い夏でした。気温上昇の記録更新と報道されています。

まだ当分、暑さは続くとの予報でもありますので、引き続き熱中症等、体調管理に留意してほしいと思います。

二〇二五年の夏が猛暑となっている原因としては、「太平洋高気圧」と、「チベット高気圧」のダブル高気圧、そして「極端に早い梅雨明け」「海水温の上昇」が挙げられ、地球温暖化にともなう気候変動も影響しているとのことでした。私たちも宇宙船地球号の一員として、何かできることはないか、一人一人が考えなければならないと、認識しています。そんな暑い夏でしたが、この夏も、海洋校生は大活躍をしました。

あとの伝達表彰にもありますが、ウエイトリフティングやボート部ではインターハイにて入賞しましたし、全国水産・海洋高等学校食品技能コンテストでは総合準優勝、その他、多くの人が全国大会などの大会に出場し、活躍しました。7月末の全国カッターレース大会でのスタッフとしても大変活躍してもらいました。来賓等でお越しになられました方々からも、皆さんの活躍にお褒めの言葉を複数いただいたところです。

さて、本日は一点だけ述べます。

今年の第一〇七回全国高等学校野球選手権大会の出場選手についてです。この京都府大会には、本校野球部も出場し、頑張ってもらいました。

皆さん、甲子園の大会に出場した「岐阜県立岐阜商業高等学校」のことを知っていますか？知っている人もいると思います。

海洋高校と同じく公立高校ですが、甲子園大会ベスト四まで勝ち進んだ快進撃で、大変話題になりました。

そのチームの中で、背番号九番 三年生 横山 温大（よこやま はると）選手のことを紹介します。

その横山選手は、この夏の岐阜県大会（予選大会）では、六試合全てで安打を放ち、一九打数一〇安打。打率五割二分六厘という圧巻の成績を残されています。また、同じく決勝戦では、出塁率一〇〇%と、即ち全ての打席で塁に出た。という結果で、チームが甲子園出場を決定するのに、大変貢献されたということでもあります。

もちろん、甲子園の舞台でも、守備・打撃の両方で活躍されています。

その横山選手は、実は、生まれつき、左手の指がありません。

左手のハンディキャップを補うために、守備においては右手にグラブ（グローブ）をはめて捕球（キャッチ）すると、瞬時にグラブ（グローブ）を抱きかかえて同じ右手で送球するという一連の動作で、健常者と変わらない速さで、一連の動作を行っておられます。打撃においても、右手でバットを持ち、左手を添える独自のフォームで、打率五割二分六厘のヒットを放つほどの活躍をされています。

報道によりますと、横山選手は、守備・打撃の技術を身に付けるのには、簡単ではなかった。器用にグラブ（グローブ）を持ち替えて送球するこの動作は、何千回、何万回という反復練習の結果であるとのことです。

皆さんも横山選手のされてきた努力を胸に留め、あきらめない気持ち、努力を怠らない姿勢を大切をお願いします。

終わりに、八月三十一日（日）を中心に行われます、京都府総合防災訓練についてです。災害発生時の防災や減災は、全国的な課題となっており、国民の関心も大変高くなっているところですが、本校を会場に、また栗田中学校や小学校の敷地も使われますが、大規模な防災訓練が、本校を主会場に行われます。準備が三十日（土）から本格的に始まります。黒潮寮生の皆さんも参加してもらうと聞いておりますが、陸から救援車両も、海からも救援の船、空からも防災ヘリコプターなどなど、少なくとも数百人の方々が、本校において訓練に取り組みれるということを知っておいてください。

本日から始まる二期は、九月初めの文化祭・体育祭という学校祭から始まり、さまざまな行事が多い日程となっています。三年生は、就職試験が始まり、その後、進学試験の時期に続きます。二年生は研修旅行、一年生は学科・コースの決定、その他国内航海実習や、対外的な行事も多くあります。

二期の終業式は、十二月十九日（金）を予定しています。季節も変わり、雪も降る時期になります。一年で最も長い二期を、一学期終業式で述べましたように、どうかタイムパフォーマンスも考えながら、皆さんにとってよい学期となりますよう、それぞれでよろしく願います。私からは以上です。

令和七年八月二十八日

京都府立海洋高等学校 校長 上林 秋男